

福島県小野町 「公立小野町地方総合病院整備事業」 この地域の復興のシンボルに 小野町病院の新設工事、起工式が行われました

10月4日、公益財団法人ヤマト福祉財団(本部:東京都中央区、理事長:有富慶二、以下:ヤマト福祉財団)「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第5次助成先の一つである公立小野町地方総合病院企業団(以下:小野町病院)は、平成26年12月の完成を目指す、『公立小野町地方総合病院』の起工式を執行了しました。

小野町は福島県いわき市と郡山市のちょうど間あたり、中心に夏井川が流れ、四方を阿武隈高原中部県立自然公園の山々に囲まれています。小野町病院は60年前に、小野町、田村市、平田村、川内村、いわき市の5市町村が出資して開設した総合病院です。

昭和45年に旧館が、平成2年には新館が建設されました。入院病床は119床、外来診療は内科をはじめ10科の診療を行い、この地域で不足する婦人科、小児科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科の診療、人工透析治療、訪問看護などの在宅医療も行い、市町村や老人福祉施設と連携した地域福祉への貢献と、さまざまな角度から地域住民の医療を支えるかけがえのない存在です。しかし、東日本大震災により甚大な被害を受け、特に旧館は各所に多くの亀裂が入り、倒壊の危険が指摘されています。地域の医療を担う病院としては早急に補強か建て替えが迫られていました。小野町病院は、国や県、市町村からも財源措置がとられないなか、本助成に申請しました。

ヤマト福祉財団では地域医療復興のため、地域唯一の総合病院の建て替え費用20億円の助成を平成24年4月24日に決定しました。小野町病院では、警察や消防署が隣接する町の中心地に4階建ての新しい病院の建設の計画を進めました。災害時には1階のロビーでトリアージができるよう設計され、これまではなかった救急医療体制も整える予定です。

起工式で藤井文夫企業長は「開院に向け、より質の高い医療を提供できる施設を目指し、一層の地域医療の充実に努めてまいります」と、また小野町の大和田昭町長は「この地域の復興のシンボルであるこの病院を中心に、保健、医療、福祉、介護の充実が図られるものと期待しています」と挨拶されました。



平成26年12月完成予定の小野町病院完成予想図



鍬入れの儀を行う有富理事長(写真左)



警察署と並んで建設される小野町病院



「地域医療の充実に務めます」と藤井企業長



「起工式を迎えられたのはこの上のない喜び」と大和田町長

【新施設】

- 鉄骨造り(耐震構造Ⅱ類)、地上4階+塔屋階
- 敷地面積:7,897.17㎡ ●延床面積:8,533.45㎡
- 駐車台数:80台、夜間・救急用駐車場12台
(地域の中核病院として災害時の病院機能の維持・確保が図られるようになっている)